

学部優秀部門奨励金

(理工学部 2021年3月卒業)

学生生活で得られた力と将来に向かって

私にとってこの4年間の学生生活は、自分のことを一回りも二回りも成長させてくれた時間であったと感じています。私は元々引っ込み思案な性格で、あまり人と話すことが得意ではありませんでした。実際に、1年生の頃は自分から話しかけに行くことが出来ず、一人でいることが多かったと思います。そのような中で、実験科目が始まりました。私は理系の科目はあまりコミュニケーションを必要としないのではないかと入学前は勝手に思い込んでいましたが、実際のところはそうではありませんでした。学生実験では何人かとペアやチームとなり、一つの目標へと向かい実験を進行していきます。その中で、実験をスムーズに進行するために、各々の役割を決め実験に臨む必要がありました。その為の話し合いや、各自の進行状況の確認をするために、コミュニケーションをとる場面が数多くありました。なので、実験を経験していく中でチームに連帯感や責任感が生まれていき、お互いの仲が深まりよく話すことが増えました。このような学生実験を計5回経験させていただき、私は以前と比べて人とコミュニケーションをよくとるようになりました。他にも課題のレポートを提出するために友人と協力することで、自分一人では解決できなかった問題の答えを導き出すことができ、実験の課程でミスの許されない場面を多く経験したことで、協力することの大切さや、物事へ向かうときの集中力など、学生生活を通じて、多くのことを学ばせていただき、人として大きく成長することが出来たと感じています。

そして、今現在私は構造有機化学研究室で卒業研究を行っています。今年度はコロナウイルスの影響で研究室も今までとは異なる流れで進行して行きました。そのような中で、難易度の高い実験を一人でやっていくことに私は不安を感じていました。しかし、生徒の側に立って親身に相談に乗ってくださる片桐准教授、細かい質問にもしっかりと対応してくださり、実験の大まかな流れを理解させていただいた先輩方、いつも明るく研究室の柔らかい雰囲気を作ってくれて、それぞれの実験の情報を共有し合い、卒論という大きな目標に共に向かった同級生達のお陰で、実験を不安なく進めることが出来ました。この一年を通じて、周りの人たちとの繋がり大切さを改めて知ることができ、自分は決して一人ではないと気付かされました。

学生生活で学ぶことが出来た多くのことを活かして、将来に向かっていきたいと思えます。私は敷島製パンという会社に生産職として内定を頂きました。工場でのライン作業を行うにあたって、今まで培ってきた物事に対する集中力や、最後まで物事に取り組む忍耐力、先輩方に積極的に質問に行くコミュニケーション能力など、これまでの経験を用いて業務に臨んでいこうと思っています。自分がこの先どのような道を歩んでいくか、どのような困難に直面するかはまだわかりませんが、人とのつながりを今まで通りに大事にして、未来へと進んでいこうと思っています。